

インターバンクの声（2015年8月11日）

米連邦準備制度理事会（FRB）の9月利上げへの大きな参考材料になる米雇用統計の発表も済み、週明けのアジア市場は夕方まで静かな相場が続いた。その後ロンドン勢が市場に参入し始めるとドルが僅かながらも買われ始める展開になり、ニューヨーク市場でもその動きが継続するのではと思われた。しかし、ニューヨーク市場の序盤、フィッシャーFRB副議長が「米国のインフレ率が非常に低い」と発言したことから、FRBの利上げが遅れるのではとの思惑が広がりドルが軟調となる動きとなった。もっとも、このフィッシャー副議長のインフレ率に関わる部分の発言は、「現在の低インフレは大部分が一時的なものだ」「原油や原材料の価格下落に起因するもので、ある時点で安定化するだろう」との部分もあり、市場が初期の段階で「インフレ率が低い」との部分だけをクローズアップしてしまった可能性が高い。その後、先週話題となったアトランタ連銀のロックハート総裁からもほぼ先週と同じ内容の発言があったが、市場の反応は限定的だった。やはり木曜日に発表される米小売売上までは概ね現状に近いレベルから大きく乖離することはなさそうだ。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。